

## 田丸卓郎のローマ字書き「力学の教科書」雑感・雑考

吉田 稔

「榎 64号」に千葉明さんの「田中館愛橋のローマ字文 TERADA Kunについて」という寄稿が掲載された。「1. はじめに」の冒頭に「田丸卓郎と寺田寅彦は田中館愛橋門下の優れた物理学者として、また三人とも日本式ローマ字書きの推進者として知られている」という文章が続く。ハッと気がついた。田丸卓郎は私の八高（旧制第八高等学校）時代に習った力学の教科書の著者だ。寄稿者の千葉さんは親しい知人である。早速知らせた。・・・思い出したよ、私は八高時代に TAMARU、RIKIGAKU NO KYOOKWASYO というローマ字書きの本で学習した・・・と。彼は驚いて言う、その本は今でも持っていますか？・・・持っていない。彼はすぐに調べて、その本は東京の古書店に1冊ある・・・と言う。お蔭で私はその本を購入して、懐かしい本に巡り会えた。70年ぶりの再会である。

八高で我々の力学を担当したのは若い押田勇雄講師だった。この講師の授業は格調高いもので、この本で自ら学習して練習問題をやれ・・・という指示である。講義はしない。授業時間には、黒板に出た生徒がローマ字で解答を書くのを眺めていた。この人はローマ字論者だと思われるが、ローマ字論の話も一切しなかった。

この本のローマ字書き用に工夫された文法と用語で書かれていた。第1編は Daiitino Oowake、計算せよ・・・は Keisansei! である。私はこのローマ字書きに悩まされた。字は読んでも文として読取り難く、理解に苦しむ。焦ると日本字に書き直したくなる。・・・このローマ字書き教科書は当時の八高生の多くには不評だった。

寅彦にはローマ字書きの作品があるそうだ。千葉さんから寅彦全集のローマ字書き作品の巻とその邦字訳を借り受け、読ませてもらった。・・・慣れないローマ字文は読み難い。理解するためにその漢字を思い浮かべる。・・・中々なじめない。力学の教科書なら表現は比較的簡明だが、漢字の表意性に頼っている日本文をローマ字書きで表現し、理解させるにはいろいろ困難がある。

この機会に日本文の歴史を考えてみた。日本語を字で書いたのが日本文だ。古い日本文が残っているのは8世紀のようで、古事記、風土記、万葉集がある。これらは漢字の音訓を借りた万葉仮名で記載された。

11世紀に、紫式部が源氏物語を書き、清少納言は枕草子を書いた。このときには平仮名が用いられ、漢字平仮名混じり文になった。平仮名は一字一音の万葉仮名の草書体化によって作られた。またこのころ、仏教僧侶の手で万葉仮名の漢字の簡略化によって片仮名が作られた。以後、日本文は漢字仮名混じりで書かれることになった。20世紀にローマ字運動が起こり、一部の文書書籍はローマ字で記された。

昭和24年（1949）に漢字の新字体化が行われた。また使用漢字の制限（常用漢字、当用漢字）やカナ用法の改善が実施され、日本文の改良が進行した。かつての小学生は、漢字を覚え、書くのに非常に苦労した。漢字の書き取りは宿題や試験の主要項目だったが、この改良によってかつての難物が、学、芸、辺、変、湾 などの新字体に代わった。漢字の読み書きの困難性はかつてのローマ字書き論者の問題にした点の一つでもあったことは感慨深い。